

第20回佐藤康光杯争奪将棋大会

八幡市出身のプロ棋士で、日本将棋連盟会長の佐藤康光九段を迎えた「第20回佐藤康光杯争奪将棋大会」が6月24日、文化センター小ホールで開催され、市内外からの参加者246人が盤上で熱い戦いを繰り広げました。

女流初段迎え記念対局も

同大会は、平成10年に佐藤九段が第56期名人位を獲得したことを記念し、翌11年から市などが毎年開催。また、今回で大会が第20回を迎えることを記念し、大会前日には佐藤九段と北村桂香女流初段による記念対局が同ホールで行われ、167人の観覧者を前に佐藤九段が目隠しをして北村女流初段と対局しました。大会の開会式では、佐藤九段があいさつで「皆さまのご尽力のおかげで大会が大きくなり、現在では八幡市内外から多くの皆さまに参加いただいております。皆さまに感謝を申し上げます」と話しました。大会は、段位や年齢で5



クラスに分かれて4人1組で予選を行い、2勝した人が決勝トーナメントに進出。参加者たちは優勝を目指して、真剣な眼差しで一手一手指していました。また、佐藤九段による小学生以下の初級者を相手にした多面指し指導も行われ、子どもたちはプロ棋士を相手に日ごろの練習の成果を発揮していました。



子どもたちと対局する佐藤九段

目隠しをして北村女流初段と対局する佐藤九段

八幡のお茶を味わう参加者たち



甘くておいしい八幡のお茶 講師招き講座や試飲

6月14日、「美味しいお茶を味わおう～八幡のお茶を体験しよう～」が美濃山コミュニティセンターで行われ、参加者12人が八幡のお茶を味わいました。

この講座は、参加者同士で交流しながら、八幡のお茶への知識を深めてもらおうと、日本茶インストラクターの松田一男さんを講師に招いて同センターが主催しました。

はじめに、松田さんが八幡のお茶の歴史や生産などを説明。「八幡の茶畑は覆いをして日光を遮る栽培方法で育てられているため、茶葉に甘み成分のテア

ニンが豊富に含まれている」となどと話し、参加者たちはメモを取ったり、質問したりしていました。

また、抹茶の原料となる碾茶を冷水で淹れた「水出し碾茶」などの試飲も行われ、参加者たちは「甘くて、おいしい」と話しながら、八幡のお茶を味わっていました。

宮下憲一さん(71)は「いろいろな淹れ方の八幡のお茶が味わえて、とてもよかったです。味も茶葉の純粋な味がして、おいしかったです」と話していました。

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

水害に備え訓練

炊き出しや水防工法を实践

梅雨入りを間近に控えた6月2日、消防団、女性防火推進隊、自主防災推進協議会、消防本部、市役所が合同の水防訓練を川口市市民公園で行いました。

同訓練は、住民の生命身体および財産を守るため、水防工法の基礎的技術の習得と水防体制の強化を図ることを目的に、毎年実施されています。約170人の参加者は7小隊に分かれ、6小隊が水防工法訓練、女性防火推進隊によ



土のうを作製する参加者たち

橋本幼稚園で交通教室

横断歩道 左右を確認 手を挙げて

6月6日、橋本幼稚園で交通教室が行われ、3～5歳児69人が横断歩道などでの交通ルールを学びました。

この教室は、園児たちに安全な横断歩道の渡り方などを学んでもらおうと、交通安全対策協議会、八幡警察署の協力を得て実施されました。



横断歩道で車の確認をする園児たち

はじめに、警察官が交通ルールを説明。横断歩道を渡るときは、「車が来ていないか左右を確認する」「手を挙げて渡る」などの説明に、園児たちは熱心に聞き入りました。

その後、室内に設営された模擬コースに挑戦。園児たちは横断歩道の手前で止まると、警察官扮する車が来ていないか左右をしっかりと確認してから、手を挙げて横断歩道を渡っていました。

また、「傘をさして歩くときは、まっすぐ持って周りが見えるようにする」などの説明もされ、園児たちはいろいろな場面での交通ルールも学んでいました。